

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No. - (事務局用)	タイトル シビックプライドの醸成	自治体名 神奈川県 横浜市
アイデア名 (注1) (公開)	ゴミ拾いコミュニティからはじまる地域づくり		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	ゴミンティア		
チーム属性 (公開)	<input type="checkbox"/> 1. 市民によるチーム	<input type="checkbox"/> 2. 学生によるチーム	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	4名		
代表者情報	氏名 (公開)	中山玲	
メンバー情報	氏名 (公開)	中村宣明、おばたこころ、関口大五郎	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

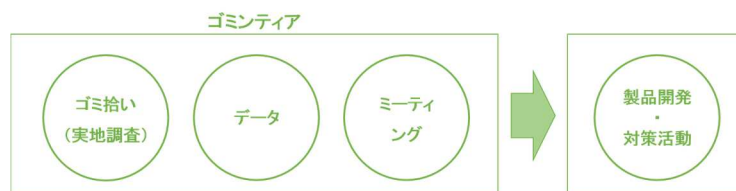
アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

ゴミ拾いコミュニティからはじまる地域づくり 「ゴミンティア」

地域のゴミを拾う定期清掃の機会を利用して、市民同士や、公民連携のためのコミュニティを形成します。地域のゴミ拾いコミュニティからはじまる地域づくりの活動は、参加者が主体的に参画を促進するための原動力となる「シビックプライド」を醸成します。

ゴミ拾いコミュニティ「ゴミンティア」は3つの活動で構成されています。

- （1）定期的に、町のゴミ拾いを行う活動
- （2）町で拾ったゴミの種類や量を記録する活動
- （3）町の変化を把握して、地域課題を議論する活動



対象となる地域周辺の市民が集まり、定期的に（月に1回）、町内のゴミ拾いを行います。この際、町で拾ったゴミの種類や量を記録して可視化するICTの担当を設置して行います。ゴミ拾いを行った後は、ミーティングを設け、町の変化や特徴的な拾ったゴミの状況を把握して、課題を見つけ、解決に向けた製品（設置物）の開発や、対策に向けた取り組みを議論します。

この過程において、参加者は、ゴミ拾いを通じて自らが住まう地域へ愛着をもち、参加者が主体的に、参加者同士や、近隣の事業者（灰皿や貼紙の設置などのポイ捨てが減少するような）連携や、協力を働きかける活動へ発展していきます。



(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

参加者が主体的に参画を促進するための原動力となる「シビックプライド」を醸成するには、**地域の役に立つことが実感できる**必要があります。しかしながら、地域の活動は多種多様であり、市民それぞれが貢献できる内容は人によってさまざまです。**地域の役に立っているかを知ることが、自らが住む地域へ愛着をもてる要素**であると考えられます。

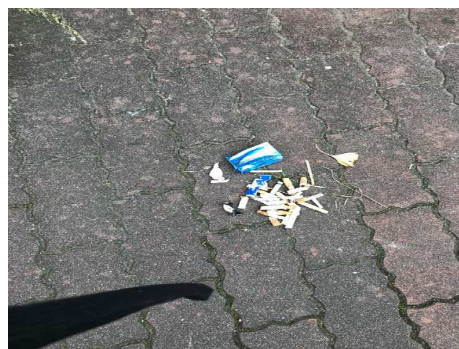
数ある地域活動の中で、**ゴミ拾いは、活動前後で即時に効果を実感することができ、はじめての人でも誰でも参画できる活動**です。ゴミ拾いは、街をきれいに保つ以外にも、つぎのような目的があります。

- ・動植物や河川などの自然をごみの汚染から守るため
- ・リサイクル可能な資源を回収するため
- ・ポイ捨てをする人たちに拾う姿を見てもらい、ポイ捨てをやめてもらうため
- ・イベント化することでポイ捨てごみに関心のある人々の交流の場にするため

特に、ゴミ拾いをするうえで、有名な考え方に「割れ窓理論（ブローケン・ウィンドウ理論）」があります。軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止できるとする環境犯罪学上の理論です。1982年に、犯罪学者ジョージ・ケリングとジェイムズ・ウィルソンが、『アトランティック・マンスリー』誌に発表したものです。「建物の窓が壊れているのを放置すると、誰も注意を払っていないという象徴になり、やがて他の窓もまもなく全て壊される」という考え方です。ジョージ・ケリングとジェイムズ・ウィルソンは犯罪に注目して示されていますが、地域づくりにおいても同様と考えられます。東京ディズニーランド・東京ディズニーシーでは、ささいな傷をおろそかにせず、ペンキの塗りなおし等の修繕を惜しみなく頻繁に行うことで、従業員や来客のマナー向上に成功しています。このような考えのもと、**ゴミ拾いの活動が地域の市民が意識を高くもつきっかけになることや、多様な取り組みに発展することの可能性を秘めています。**

しかしながら、2年程度ゴミ拾い活動を継続して行ってきたメンバー（NPO 法人海の森・山の森事務局）の話によると、毎月多少の変化はあるものの長い期間で見ると、**収集したゴミの量は横ばい**の状況にあります。ゴミを拾うことで、即時に街のゴミが減少する効果を実感することができ、街はきれいになりますが、ポイ捨て自体をなくす活動にはつながっていませんでした。そこで、ゴミを拾った位置と種類と、量を正確に測りデータにして、毎回の変化を視覚化できるようにしました。また、特異なゴミの捨てられ方がある場合には、どのように解決していけばよいかを議論する場を設けました。

井土ヶ谷では、大きな交差点に大量の吸い殻が捨ててある場所がありました。交差点の待ち時間がほかに比べて長いために、タバコを吸い、その後捨てていくと予想をつけました。この予想から、私たち（担当 おばたこころ）は、主体的に交差点の脇に、邪魔にならず、雨風の中で耐える灰皿の開発や、設置を許可してもらうための取り組みを進めています。



交差点付近に集中する吸い殻

杉田周辺では、ほかの地域に比べ、古い乾電池のポイ捨てが非常に多く、特異な状況になっています。古い乾電池を収集する場所や収集の日が不明で、困って捨てているのではないかと推察しました。この考察から、私たち（担当 中山玲）は、小型の家電製品の捨て方に関する分別や制度を調べ、認知啓蒙するチラシやホームページの制作をすることにし、商店街のお店に協力していただきPRすることにしました。



このように、個別の活動はすぐに成果がでるものではありません。従って継続的に成果を確認していくこととなりますが、「**ゴミ拾い**」と「**データ収集**」と「**ミーティング（対策会議）**」を1日のうちに**組み合わせ実施**することで、これまでのゴミ拾いをして町をきれいにするだけにとまらない、より街に対する問題意識をもって取り組みます。**地域の役に立てることがあるか考えることで、以前よりも自らが住む地域へ愛着をもつようになった**、と私たち自身が身を持って実感しています。



大量の吸い殻を見かねた
中学生が開発した
雨風に耐える
ポリマー樹脂を用いた灰皿

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

実現する主体

中学生のメンバーを中心に、グリーンバード横浜南チーム、NPO 法人海の森・山の森事務局、株式会社太陽住建、データベースやアプリケーション開発の ICT 専門家の連携体で取り組んでいます。

実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）

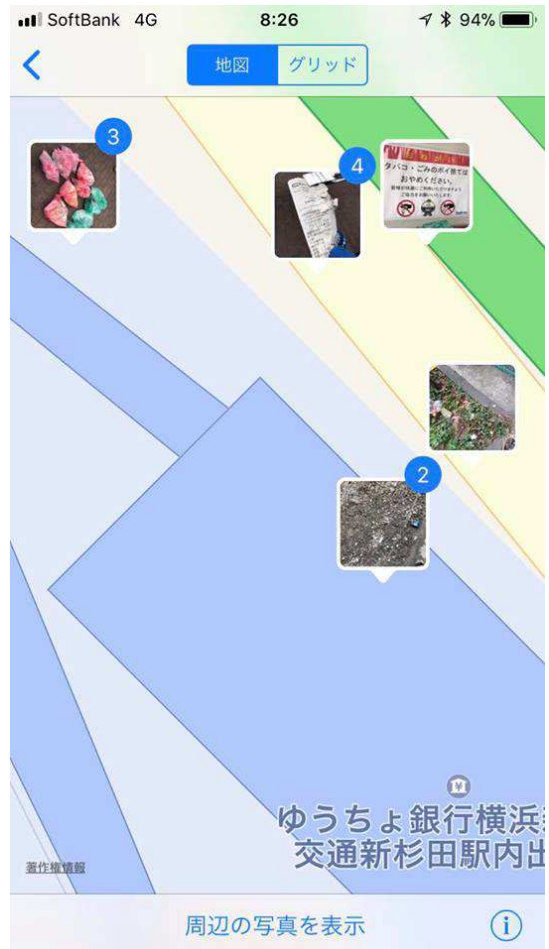
- ・ゴミ拾いに必要な道具（ゴミ袋、軍手、トンク）は、特定非営利活動法人 green bird（グリーンバード）の横浜南チームと連携することで、お借りして運営しています。
- ・ゴミの重量を測定するための道具やノウハウは、NPO 法人海の森・山の森事務局と連携して、教示いただきながら、標準化した測定方法により行っています。
- ・ゴミの可視化のためのデータ化・アプリケーション開発を ICT 専門家（主担当：関口大五郎）に助言いただいています。
- ・ミーティング（対策会議）の開催は、株式会社太陽住建（本社：横浜市南区井土ヶ谷）に協力していただき、場所の提供を受けています。

アイデアの実現にいたる

プロセスとマイルストーン

ゴミを拾う定期清掃の機会をゴミのデータを取得しながら、市民同士や、公民連携のためのコミュニティにするアイデアは、比較的容易で継続的に活動できるシンプルな仕組みです。3 拠点で月 1 回 1 時間程度、実施します。

はじめて参加する人、計画の途中から参加する人にとっても、容易にこれまでの活動を把握して参画しやすくする ICT の仕組みは重要です。フリーの地図作成サービスを用いて、記録保存と共有を行います。（右図）



定期清掃の準備プロセス

- ・ゴミ拾いのコース決定
- ・ミーティング会場の決定
- ・ゴミ拾いに必要な道具の準備
- ・IT ツールの活用法習得
- ・開催場所の周知（招集）

これから参画する人へのシビックプライドの醸成のプロセス

